

不詳(軍用機内無線士) 制作年代不詳 36.6×25.7cm

向井潤吉・ 従軍の記録と 民家展

生誕100年記念

向井潤吉の旅

2001

8月4日^土-11月25日^日

開館時間:午前10時-午後6時(入館は5時30分まで)

休館日:毎週月曜日(ただし祝日と重なった場合は翌日)

観覧料:一般200円(160円)、大高生150円(120円)、中小生100円(80円)、
65歳以上及び障害者の方100円(80円) ()内は20名以上の団体料金

世田谷美術館分館

向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL.03-5450-9581 FAX.03-5450-9583



奥丹波の秋(京都府船井郡丹波町) 1969年 45.5×53.0cm

向井潤吉・従軍の記録と民家展

生誕100年記念
向井潤吉の旅

向井潤吉先生の生誕から、本年は100年目にあたります。93歳という先生の長き生涯を思い返しますと、まさに20世紀の出来事も多く、先生が見聞されてきたことに気づきます。それは画家としての体験であるにとどまらず、ひとりの人間としての経験であり、歩みであったと思います。

戦後から50有余年が過ぎ去った今、日本という国は、大きな変貌を遂げてきました。それは衣食住という人間の根源に触れる、大きな変化であり、私たちは、多くのものを得つつも、多くのものも失ってきました。

向井先生が草屋根の民家を題材とする作品を描き始められたのは、戦後間もない頃のことでした。そして約40年間にわたって、先生は全国各地に取材を重ね、膨大な作品を制作されてきました。

先生が描き遺された草屋根の民家を題材とした諸作品は、日本の伝統的な住まいの形状を写しているということにおおらず、日本人の生活そのものを、草屋根の民家という題材を通じて表現していると言えるのではないのでしょうか。今日においては、向井先生が描かれた草屋根の民家を題材とした作品は、美術作品という範疇を越えて、とても重要で、かけがえのない記録としての意味をもち始めています。草屋根の民家に具体的にかかわりのある人々が少数になってきた今、生活の拠点となっていた伝統的な住まいのありさまの一端を、私たちは向井先生の作品を通じて知ることになります。

向井先生が戦争という異常で過酷な現実をつぶさに見聞する中で制作された作品の数々は、まさに現実そのものを写したものであり、作品が伝える記録的な意味合いは、今日においては重要で、歴史的な資料になっていると言えます。

向井先生の従軍期の諸作品と、草屋根の民家を題材とした作品の数々は、戦後50余年を経た今、絵画の持つ記録性という一つの線によって結ばれ、新世紀に受け継がれていくべきメッセージとなっています。

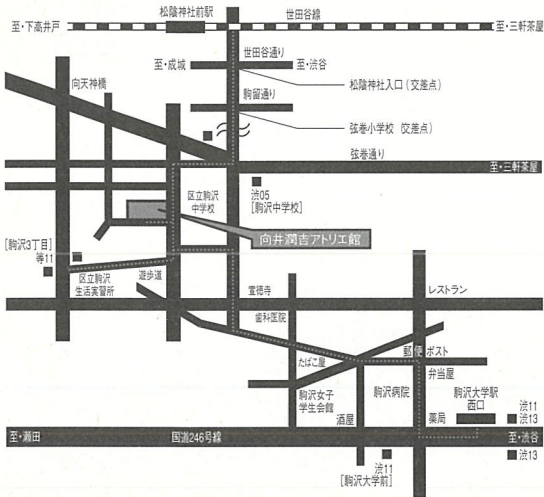
このたびの展示では、向井先生が従軍画家として戦地を巡っていた時期に制作された作品と、草屋根の民家を題材とした諸作品をご紹介します。



不詳(架橋工事) 制作年代不詳 25.1×35.0cm



不詳(兵隊) 制作年代不詳 25.1×35.0cm



白川郷(岐阜県大野郡白川村萩町) 1963年 72.8×90.9cm

●最寄り交通機関のご案内

- 東急田園都市線 駒澤大学駅西口下車 徒歩10分
- 東急世田谷線 松陰神社前駅 下車 徒歩17分
- 東急バス(渋05) 渋谷～弦巻営業所 駒沢中学校下車 徒歩 3分
- 東急バス(等11) 祖師谷折返所～等々力 駒沢3丁目下車 徒歩 3分
- 東急バス(渋11) 渋谷～田園調布 駒沢大学駅前下車 徒歩10分
- 東急バス(渋12) 渋谷～二子玉川 駒沢大学駅前下車 徒歩10分

世田谷美術館分館 向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL.03-5450-9581 FAX.03-5450-9583



戸隠(長野県上水内郡戸隠村) 1961年頃 45.0×53.0cm



秩父枯色(埼玉県秩父市) 制作年代不詳 40.8×53.0cm